

『ピアノの詩人 ショパン Part2』

今日は谷口会長が公務でご欠席の為に私、泉が副会長の時間として担当させていただきます。

前回ショパンを山内さんにピアノ演奏をして頂き好評だったので、今日も私が話しするより演奏をお聞き頂いた方が良いと思いお願いしました。<ピアノの詩人>ショパンは主に右手で演奏されるメロディが哀愁あふれる魅力で、左手の伴奏も独特の豊かなリズムで聴く人の心を魅了します。ショパン自身の手の大きさは普通の人と変わらず(リストなどは非常に大きな手でピアノ鍵盤10度以上届いた)アップライトピアノで作曲していたこともあり音域狭くて日本人のピアニストに向いているのではとされています。

今日はワルツ19番イ短調(遺作)を演奏して頂きます。

遺作とは作曲家が亡くなってから発見された曲の事で、このワルツは没後 100 年たってから出版されました。ワルツは13世紀頃からオーストリーの田舎チロル地方やバイエルンで踊られていたヴェラー (Weller) が起源だと言われています。

この舞曲は他の舞曲と違いゲルマン文化初の男女が組み合って激しく踊ることからハプスブルグ帝国時代永く禁じられていましたがあまりにも民衆が踊りまくるので解禁になり18世紀にはオーストリアを代表するウィーンなワルツとなりました。それがフランスを経由してポーランドでも踊られショパンの耳に入ったのでしょ。



も



今日演奏して頂く山内さんは、和歌山県立串本古座高校(有名な大島は目の前)から神戸女学院のピアノ科を卒業。サウンドミュージックのロケ地としても知られモーツアルトの生誕地ザルツブルグの夏季講習やウィーンでも演奏するなど多方面で活躍しています。それではお聞き下さい。

ショパン作曲 ワルツ第 19 番 イ短調 遺作

<追伸>秋の夜長、ユーチューブでショパンをクリックしてお聴きください。